

我が校の強み弱み分析・評価シート

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要と強み・弱み》調査人数が少ないため、全体的な傾向を捉えることは難しいですが以下の結果が見られました。

<教科について>

- ・国語科では、各領域において国や県の結果と大きく変わることはありませんでしたが、特に「情報の扱い方に関する事項」の領域においては10ポイント以上高い正答率となりました。その一方、「言葉の特徴や扱い方に関する事項」の領域においては、県や全国よりも5ポイントほど低い正答率でした。
- ・算数科では、いずれの領域においても国や県の結果を上回りました。特に「図形」の領域では、県や全国よりも15ポイントほど高い正答率となりました。

<児童質問紙について>

肯定的に回答する児童が多い項目

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「新聞を読んでいますか」、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」

課題の見られる項目

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」、「読書が好きですか」、「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」

【指導の充実に向けて】

本校教育の充実と課題解決のため、以下の項目において昨年度に引き続き重点的に取組を進めます。

1. 授業改善・学力向上

- ⇒「わかる」「できた」の喜びを味わわせるために、単元のゴールを見据えた授業づくりを進める。そして、話し合い活動を取り入れることで、互いの考えを尊重し、合意形成できる力を育てるように授業改善を図る。また、朝のチャレンジタイムや学習教室を通して、基礎学力の向上やつまずきの克服に努める。本校の課題である「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、語彙力の低さが浮き彫りになった。教科学習に必要な言語能力を高めるため、日ごろから授業中に意識して教科で使う言語を使用したり、キーワードを用いた日記やテーマ作文といった短文づくり等を積極的に学習に取り入れたりする取組を進めていく。
- ・図書室の環境整備を進め、読書の推進を図る。（「ふじぶくつうちょう」の活用等）読書・読み聞かせ等、本にふれることで、表現力や語彙力を養っていく。

2. ICT学習・プログラミング学習の促進

⇒教員は積極的にICT機器を活用し、ICTの利点を生かした授業づくりを推進する。児童のプログラミング的思考を培うために、社会人活用の先生の助言を受けながらプログラミング教育の基盤を構築していく。また、家庭学習にもタブレット学習を意識的に取り入れ、児童の学習状況に合わせた学習ができるようにしていく。

3. 生徒指導の充実

⇒皇子山中学校区区の5つの約束について継続して指導していく。児童が自らがあたりまえのこととして取り組んでいけるように、各項目の啓発を児童が中心となって行い、共通実践を図る。また、学期ごとに表彰することで児童の頑張りを認め、次学期もめあてをもって活動できるよう励ましていく。

4. 特別支援教育の促進と充実

⇒総合的な学習の時間に社会福祉や障がい者理解について学習する機会を位置づけて、系統的な学びを推進する。

5. 地域と学校の絆を結ぶ教育

⇒地域のことを大切に思う児童が多くいることは最大の利点である。地域の行事への参加を通して、人と交流する時間を大切にしていく。また、コミュニティスクールの観点から地域との連携を図り、学習広場の取組や地域に根差して地域人材を活用した取組などのさらなる活性化を図る。そして、HPや学校だより等で地域への発信を随時行っていく。